

学校だより

西丸子



4月号

令和6年4月8日（月）川崎市立西丸子小学校

おおらかな構えで

川崎市立西丸子小学校 校長 筒井愛子

この季節の話題は、どうしても桜ですね。今年は例年より開花が遅れているとのことで、子どもたちの進級、入学をお祝いしてくれているのだなど、都合よく解釈しております。

改めまして、お子さんのご進級、ご入学、本当におめでとうございます。2週間前の修了式では、この1年でたくましく、素晴らしく成長した子どもたちの姿を見て、小学校時代の1年間の大切さ、大きさを痛感しました。子どもたちに、「この1年で、できるようになったことや、成長したことは、なかなか自分では気づかないので、友達やお家の方と、たくさん話してみてください。」と伝えました。お子さんから、そんなお話はあったでしょうか。また、その時にもう一つ、始業式までの宿題を出しました。これまでは、子どもたちにプラスの振り返りを促すことが多かったのですが、あえて、「ちょっと苦手だとか、無理と思っていることを、心の中に一つ思い浮かべてくる。」というのが宿題の内容です。

マスク着用が任意となって1年が過ぎ、社会全体に、コロナ前の生活が戻ってきています。ところが、子どもたちと一緒に過ごしていると、この数年間の過ごし方が、生活のあらゆる場面に影を落としているようにも感じます。その中の一つに、「自分に自信をもつことが難しい。」「失敗を必要以上に恐れる。」など、「一歩がなかなか踏み出せない。」という傾向があります。これが本当にコロナ禍と因果関係があるのかどうかは、定かではありませんが、同じ5年間でも、大人と子どもでは、その後の生活に与える影響がかなり違うことは確かです。「苦手」に対して、「まずは、やってみよう。」「一歩でも前進できれば、良しとしよう。」といったおおらかな構えが認められる雰囲気があると、子どもたちは、もっともっとのびのびと過ごすことができるのではないかと考え、「始業式ではこんな話をしよう。」と、思いついた宿題です。どんな反応があるか、楽しみです。

さて、学校では、82名の凛々しい卒業生とお別れし、90名の可愛い1年生を迎えました。本年度は児童数496名でスタートです。また、職員の方も、これまで学校を支えてきた7名が離退任いたしました。ご多用の中、PTA役員の皆様をはじめ保護者の皆様、卒業生の皆様にも多数ご来校くださいましたことに、心より感謝申し上げます。新たに、12名の新メンバーが加わり、総勢47名の教職員で、「チーム西丸子2024」としてスタートを切りました。私自身も、こんな素敵な学校で、校長として4年目を迎えることができたことを、本当に幸せに思います。教職員一同、本年度も心を合わせて教育活動に励んでまいります。どうぞよろしく願いいたします。また、2025年の創立70周年記念事業に向けた準備も、昨年度より始まっています。学校運営協議会会長の川島高之様（本校第17代PTA会長）に実行委員長をお受けいただきました。11月8日の式典に向け、子どもも地域も、「みんなが輝く西丸子」を目指し、邁進してまいります。地域、保護者の皆様方におかれましては、本年度もどうぞ変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。